

GER310 比較文化論演習

3年 3,4クォーター

担当教員	磯崎 康太郎
授業形態	演習
単位数	2
曜日・時限	未定

授業概要

映像資料も参考にしながら、Doris Dörrie 作 „Kirschblüten. Hanami“のドイツ語脚本を読解していく。ドイツ人の日本への旅と日本文化との触れ合いをテーマにした同作は、日本とドイツとの文化比較にとって興味深い素材となるだろう。また、脚本であるがゆえに登場人物たちの科白を通じて、ドイツ語の日常会話表現の習得にも効果的であると考えられる。ドイツ語テキストの講読が授業の中心となるが、映像資料等を通して適宜内容を補足する予定である。

到達目標

学生は、

- (1) ドイツ語の文章構造、会話表現を理解し、中級に近づく語学力を獲得する。
- (2) 日独の文化比較を扱ったテキストを通じて、異者の目からみた日本事情、ドイツ事情について理解を深める。
- (3) 各自が担当箇所の読解と訳出に責任を持ち、積極的に協働的な学びを経験する。

期待される効果

- ・映画脚本と映像で見る会話表現を通じて、現代のドイツで実際に使われている生きたドイツ語を習得することができる。
- ・日本文化に対する外国人の視点とそのクリシェを通じて、比較文化論への問題意識を高めることができる。
- ・英語とも親縁性の強いドイツ語の語学力を高めることにより、国際社会でより活躍できる人材となることができる。

先修科目

「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」、あるいは「ドイツ語の世界1,2」が既修であること、「ドイツ語Ⅲ、Ⅳ」も履修しておくことが望ましい。

教科書・参考資料等

配布資料を主たる教材とするため、教科書はとくに指定しない予定である。参考書は、以下のものを指定するが、個別的な参考文献については随時紹介する。

- (a) Doris Dörrie: Kirschblüten. Hanami. Ein Filmbuch. Zürich (Diogenes) 2008.
- (b) 浜本隆史、高橋憲『現代ドイツを知るための62章』 明石書店 2013年
- (c) 小島泰（監修）『ドイツ人が日本人によく聞く100の質問』 三修社 2009年

授業の方法

この授業は演習形式を基本とする。受講生は予習としてドイツ語テキストに目を通し、読解したうえで、授業時にその成果を発表し、担当教員が適宜、内容の解説や文法事項の説明等を行っていく。理解の到達度を見るために、学期末には最終試験を行う。

成績評価

(授業への取り組み)

授業参画の姿勢、具体的には各回の授業において予習によるテキストの読解を問うことになるので、その取り組みを評価対象とする。

(学期末試験)

授業で扱ったドイツ語テキストや配布資料等をもとに試験範囲を設定し、ドイツ語の語学力を問う学期末試験を行う。

成績

30%	授業への取り組み
70%	学期末試験

授業スケジュール

第1回:

ガイダンス、日独比較文化論についての概説とドリス・デリエ『HANAMI』の紹介

第2回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足①

第3回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足②

第4回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足③

第5回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足④

第6回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足⑤

第7回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足⑥

第8回:

前半のまとめ：内容的・文法的補足、前半の内容に関するディスカッション

第9回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足⑦

第10回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足⑧

第11回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足⑨

第12回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足⑩

第13回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足⑪

第14回:

『HANAMI』の読解、解説および文法的説明、映像資料による内容の補足⑫

第15回:

全体のまとめ：内容的・文法的補足、後半の内容に関するディスカッション、学期末試験範囲の確認

事前・事後学習

- ① 各回の授業で扱うドイツ語テキストを事前に読解し、不明な箇所等を明確にしておくこと(予習)。
- ② 授業の後に、授業で扱ったドイツ語テキストによく目を通し、不明な箇所が解決されたことを確認すること。配布資料と共に対応する参考資料等の項目について理解を深めること(復習)。